



国鉄千葉労働組合

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

98-1-1 No. 4715



大失業と戦争の時代

九七年という年は、戦後の歴史を一変させた年であった。日本の権力者は、新ガイドラインの調印をもって、戦争を放棄し交戦権を否定した戦後憲法体制を蹂躪して、「戦争をやる」ことを内外に宣言した。

またその一方で、戦後の資本主義体制は、ついに破局に向けてつき進み始めた。世界同時株暴落―北海道拓殖銀行や山一証券の倒産という衝撃的な出来事、世界的な金融恐慌に陥りつつあるという状況。

これまでの社会のあり方は全てにわたって、否応なく一変しようとしている。時代の様相は、一九二九年恐慌から第二次大戦へ、昭和恐慌から一五年戦争へとつき進んでいった過程とそっくりだ。まさに「大失業と戦争の時代」の到来である。資本主義体制が崩壊し、終わりゆく時代が始まろうとしている。世界の支配者たちは、「国家の生き残り」をかけて、平和や民主主義、法や秩序というもので自らを粉飾することすらやめて、襲いかかり傷つけあう猛獣、大混戦を演ずる強盗たちの宴、人類にとつての災厄としてあらわれて、その赤裸々な姿を示している。

大激動の年九八年



九八年は、間違いなく「天下大乱の年」となるだろう。

何よりも、新ガイドラインに基づく関連法案(有事法制)が通常国会に上程される。労働法制の改悪や組織的犯罪対策など提出される。そればかりではなく、年金・医療・社会保障制度の見直しから次へとでてくる。

また、財政構造改革法に基づく九八年年度予算編成は、当座の危機を先送りさせるための膨大な公的資金の導入、金融システム安定化法案や「景気対策」のなかで、何ひとつ整合性のないメチャクチャなものになる。

しかも、銀行・証券・生保・ゼネコンの多くは、いつ倒れてもおかしくない状態だ。日本発の国債金融恐慌、米バブル崩壊、アジアの経済危機の一層の進行等々、支配体制にとつては背筋の凍りつくような事態がいつ噴きだすのか誰にも予測がつかない状態にある。さらに、橋本政権はいつ倒れてもおかしくない状態で政治的な危機・大混乱は避けようもない。

労働者に対しては、徹底した首切りや合理化、権利や社会保障の剥脱が一気に襲いかかる年になるだろう。結局橋本は、戦後のあり方をかなぐり捨てて戦争を遂行できる国家体制に日本を脱皮させるためにつき進む以外いかなる選択の道ももってはいないのだ。しかし、有事法制にしても、労働法制の改悪にしても、組合法にしても、ひと筋縄でいく問題ではない。橋本政

権は解決のつかない山ほどの課題と予測もつかない危機を抱え込んで震えあがり、悲鳴をあげている。

正念場の国鉄闘争

一〇四七名の解雇撤回闘争を中心とした国鉄闘争も、今年いよいよ最大の勝負のときを迎えた。

昨年二月一七日、橋本政権は、与党財政構造改革会議において、二八兆円問題の「処理」について、JR追加負担を含め「六〇年で償還する」との「方針を固めるとともに」、「不採用問題についても与党間で取り組む」との集約を行い、同日、東京地裁民事一部は、政府の動きと完全に一体となつて、JR北海道九州・貨物・西日本を呼び、①一〇四七名の内、雇用の場を確保する必要のあるものについて、JR各社で採用する。

② それ以外の者については、事業団・政府の責任で金銭保障をする。

③ 労使正常化に向けた交渉をする。この「和解案」を提示し、この内容は二月二四日に国労にも伝えられた。事態は明らかである。危機にあえぐ橋本政権は、一〇四七名の闘いと国労の存在をこ以上許さないというはらを固め、本格的に動き出したのだ。

しかし国労本部は、「解決に向けたラストチャンスだ」と主張して、この土俵に全面的にのろうとしている。

国鉄闘争は、一月二八日の国労中央委員会から三月の予算編成時期に向けて最大の正念場を迎えた。国鉄闘争の勝利の道はJRとJR総連・革マルの結託体制を自らの力で打ち破ることのなかにある。十年間の闘いは敵を追い詰め、そして今「大失業と戦争の時代」を前に、国鉄闘争がもつ位置はこれまでに大きく広がっている。われわれは、今こそ全ての労働者の先頭にたつ

て、闘う労働運動をつくりあげるために起ちあがらなければならない。

新たな労働運動を

今ほど、労働者の生き方、労働運動のあり方が問われているときはない。賃上げどころか賃下げが問題となるような時代のなかで、なおかつ団結を守りぬき、怒りを結集して日々戦列を拡大し、現在の支配体制そのものに挑みかかってゆくような、全く新たな労働運動のあり方をつくりあげなければならぬ。国鉄闘争はこの十年間、そうした団結と闘争のあり方を自らの闘いをもって貫いてきた。

今、金融危機と倒産の嵐は、労働者の意識を激しく流動化させている。生活の隅々までもが「大失業と戦争の時代」に侵され、時代への危機感が満ち始めている。一方、支配体制の側は、いつ崩れ落ちてもおかしくない危機に直面している。労働千葉が二八名の解雇撤回闘争で、大きな勝利をかちとつたように、沖縄の県民が名護の市民投票で勝利したように、闘えば時代が動く情勢を迎えているのだ。

連合は、「豊かな生活と国益を守るためには、日米安保条約―新ガイドラインが必要である」と称して、戦争推進勢力に転落した。今こそ、闘う労働運動の新しい潮流が必要だ。

情勢を真正面から見すえ、激動の時代に通用する新たな世代の労働千葉をつくりあげよう。正念場の国鉄闘争に勝利しよう。今春闘は決定的に重要な闘いだ。新たな「春闘元年」として位置づけ、労働者の怒りの声を結集しよう。「新ガイドラインと有事立法に反対する百万人署名」の呼びかけに応え、全国津々浦々に運動を広げよう。九八年を闘う労働運動の新しい潮流の本格的な発展の年としよう。

新たな10万人合理化粉碎!! 労働運動の新たな潮流めざし全国へはばたこう!!